

みんなと TUNAGU

～孫子の兵法から学ぶこと～



平 望花

私の趣味は、ディズニーや USJ などのテーマパークに行き現実逃避することや、小学生のころから続いている日本史に関する本を読むことです。今回は日本史についてお話しをしたいと思います。

日本史の中で特に興味を持ったのは戦国時代でした。戦国の世は、己の才覚さえあれば成り上がり大出世を果たすことができる、そこが魅力の一つだと思いました。戦国時代の本や大河ドラマを見ていると、よく「孫子の兵法」が引用されています。

孫子の兵法は、紀元前 500 年中国の春秋時代に孫武によって書かれた世界最古の兵法書で、現在でもビジネス書として重宝されており、マークザッカーバークやビルゲイツ、孫正義といった名だたる企業家も読んでいます。高校時代に初めて読んだのですが、あまりにも難解で途中で読むのをやめてしまったことを覚えています。大学時代、社会人になってからも読み返し、少しずつですが理解ができるようになってきました。その中で、特に印象に残っている言葉を 2 つご紹介したいと思います。

1 つ目は、「敵を知り己を知れば百戦して危なからず」です。相手を知り自分を知れば、百回戦ったとしても負けることはないという意味です。2 つ目は、「善く戦う者は」、人を致して人に致されず」です。勝負に勝つためには人を動かす立場に回り、人に動かされないという意味です。私に当てはめると、特にカンファレンスの場面や、リーダー業務をする中でこの 2 つの言葉が常に頭の中にあります。他者理解や自己理解、周囲への配慮や目配り気配り、情報収集力、判断力、統率力といった看護業務にも重要な要素がこの言葉には詰まっていると感じています。

看護師としても人としても、今よりもレベルアップできるよう、孫子の兵法から多くの事をこれからも学んでいきたいと思っています。



～看護師になったきっかけ～

木村 未来

私は今、看護師2年目になりますが、看護師になろうと思い始めたのは、小学6年生の時です。あるドラマを観て、看護師になりたいと思い始めました。そのドラマは、「コードブルー」です。ドクターヘリに乗り、患者さんのもとへ助けに行くところ、医師の補助をしているところ、患者さんに親身になって話をしているところを見て、自分も看護師になりたいと思ったのがきっかけでした。中学生の時に祖父が脳梗塞で入院した際、優しく接して下さった看護師さんを見て、将来看護師になると決め、看護学校に進みました。看護師になることを一番楽しみにしていた祖母が、私が看護学生3年生の夏ごろに他界してしまいました。祖母に看護師の姿を見せられなかったことが一番悲しく、とても悔しい思いをしました。今は、天国から見守ってくれていると信じて、これからも看護師を頑張ろうと思っています。

看護師になるまで、凄く辛いことも多く、しんどくなったりしたこともありましたが、今はこの南芦屋浜病院の3階病棟の先輩方と一緒に看護をすることができて、すごくうれしく思っています。まだまだ知識が足りませんが、これからもっと勉強して、一人前の看護師さんと言ってもらえるように頑張りたいと思います。

